

平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 31 年 4 月 28 日

代表者 東畑 開人

研究課題名	精神科デイケアにおける「ケア」と「セラピー」の差異—公認心理師教育のための基礎研究
研究期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
共同研究者	
1. 今年度の研究概要	
<p>公認心理師が施行され、今後医療現場で心理職が広く仕事をしていくことが期待されている。しかし、従来の心理師教育では「カウンセリング」が重要な柱とされ、「セラピー」が訓練の中核となってきた。これは医療現場では多職種連携が期待され(心理研修センター,2018)、心理師は「セラピー」ではなく「ケア」の仕事こそが求められることとは対照的であり、今後の公認心理師教育において重要な論点となると考えられる。本研究は以上を踏まえて、具体的に今後公認心理師が活躍する主要な舞台となると考えられる精神科デイケアを取り上げて、そこでなされる「ケア」と「セラピー」にいかなる差異があるのか、そしてそれらがいかにして多職種連携を可能にするのか、そしてそのような「ケア」を可能にする公認心理師教育とはいかなるものかを明らかにした。そのために国内の精神科デイケア施設でのフィールドワークを行い、研究代表者自身のデイケアでの臨床経験について思索を深めていった。</p> <p>特に、デイケアのうちでも、居場所型と通過型を二分して研究を行った。後者ではデイケアを「通過」して社会復帰をすることが目指されるため、認知行動療法やソーシャルスキルトレーニングなどが多く行われるのに対して、前者では生活機能の維持に関心が注がれるため、「いる」ことそのものが重視される。それゆえにこの二つでは、同じケアでもその内実が大きく異なる。そのような差異をとらえることで、ケアとセラピーという二つの概念を創造することが行われた。</p>	
2. 研究の成果	
<p>研究成果として、平成 31 年 2 月に「居るのはつらいよ—ケアとセラピーについての覚書」を医学書院より出版した。本書は発売から 2 カ月ですでに 4 刷に達して、広く読者を得ることに成功している。具体的には心理職だけではなく、福祉や医療の専門家、そして子育てなど、様々なケアテイカーに読まれるに至り、現在のケアを巡る問題に一石を投じることになった。</p> <p>具体的には「いるとする」「心と身体」「専門家と素人」「円環的時間と直線的時間」「人と構造」「アジールとアサイラム」など、複数のトピックについて議論を行い、それらを「ケアとセラピー」という二分法によって把握し、論じることができた。以上の研究は、デイケアに留まらず、適応指導教室や子育てなど様々なケアの現場に応用しうる普遍的な構造を取り出したものとして高く評価されるに至っている。</p> <p>そのほかにも添付した論文「公認心理師の人類学」(こころと文化 Vol.18(1). 61-68)「心理療法家にとっての人類学—もたらされるものと失われるもの」(ナラティブとケア Vol.10. pp.46-54.)も執筆出版し、本論で扱ったケアとセラピーという問題について論じている。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

上述したように、すでに一冊の単行本、および論文 2 本として研究成果をまとめて発表している。